

前回まで見てきたプラスチックの大量使用が海洋汚染を引き起こしている状況は、SDGs の 14 番に掲げられた「海の豊かさを守ろう」という目標に反するものでした。今回は改めて SDGs に触れたいと思います。

SDGs とは、2015 年 9 月に国連総会で採択された行動計画「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記された 17 分野の目標のこと。地球環境や経済活動、人々の暮らしなどを持続可能とするための目標で、Sustainable Development Goals の頭文字から SDGs と呼びます。気候変動や海洋汚染といった地球規模の環境問題だけでなく貧困や不平等といった各国が抱える問題を同時に解決していくために国際社会が合意した「ものさし」です。

1 番目の目標は、「貧困をなくそう」、5 番目は、「ジェンダー平等を実現しよう」、6 番目は、「安全な水とトイレを世界中に」、7 番目は、「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」といった具合です。これらの目標には具体的な行動の目安となるターゲットが書かれており、全部で 169 に達します。この目標に向かって、私達ひとり一人はどう行動していくのかが問われています。

12 番目は「つくる責任 つかう責任」です。標語的な表現となっていますが、「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」という目標です。この目標 12 には、8 項目 11 個のターゲットがありますが、個人の行動に直接かかわるものとして、12.4「2030 年までに小売・消費レベルにける一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる」、12.5「廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」、12.8「2030 年までに、人々があらゆる場所において持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする」があります。要は食品ロスの削減と 3R に努め環境にやさしいライフスタイルを、ということです。

使い捨てプラの削減も、このような潮流の中に位置付けることができるのです。一人ひとりの行動が「つくる責任 つかう責任」という国際目標につながっているのです。